

JA長崎せいひは農業にチャレンジしたい方を全力で応援します

何もないところから就農するには、JAの後押しが必要です

JA長崎せいひの新規就農者サポート

● 営農指導と農産物販売

当 JA では、果樹、野菜、花き、畜産の専門指導員を各地域に常駐させています。研修期間はもちろん、開業後も生産技術指導から農産物の販売まで一貫したサポートを行います。



● ハウスリース事業

就農時点で一番お金がかかるのが、ビニールハウスなどの設備投資です。開業時点で、中古ハウスや賃貸可能なハウスなどがタイミングよく見つければいいのですが、新規で建設するとなると補助金等を活用しても数百万から数千万円の借金をしなければなりません。当 JA では、新規就農者や地域の担い手がビニールハウスなどの施設園芸にチャレンジしやすい環境をつくるため、独自のハウスリース事業を展開しています。



年度	面積 (㎡)	戸数	作物
令和元年度	約 7,400	5 戸	(いちご)
令和2年度	約 8,400	4 戸	(いちご)
令和3年度 (予定)	約 10,000	7 戸	(いちご)
	約 8,000	6 戸	(いちご)
	約 3,000	3 戸	(アスパラガス)
	約 1,500	1 戸	(花き)

● 各種補助事業の支援

農業分野では、新規就農者に対し、設備投資などの負担軽減をはかるために、いろいろな助成措置があります。そういった補助金申請の手続きをサポートします。

● 関係機関との連携

長崎県、市、町などと連携して農地の確保や住居の確保などのお手伝いをします。

● 経営診断分析・農業簿記記帳や税務支援

JA 長崎せいひでは、青色申告会という組織を通じて、農業簿記記帳や税務申告の支援を行っております。また要望に応じて、個々の販売実績や税務申告情報を活用した経営分析診断も行っております。



● 不足する労働力を

ほとんどの農家の労働力は家族労働が中心となります。しかし新規就農者の方は、なかなかその確保ができません。当 JA では無料職業紹介所を通じた、求職者をあっ旋しています。さらに近年では福祉事業所と連携する農福連携にも力を入れています。また、労働者を雇い入れる際には、労災保険事務組合を通じた労作保険の加入手続きなども支援いたします。



問い合わせ先

〒851-3102 長崎市琴海村松町 718-1
JA 長崎せいひ担い手支援センター

TEL 095-825-5601
FAX 095-884-2113



JA長崎せいひの研修制度を活用して「農業」を始めてみませんか？

JA長崎せいひの紹介

JA は、農家の営農や生活を指導するほか、生産資材・生活資材の共同購入や農畜産物の共同販売、貯金の受け入れ、農業生産資金や生活資金の貸し付け、農業生産や生活に必要な共同利用施設の設置、あるいは万一の場合に備える共済等の事業や活動を行っています。

JA 長崎せいひは、長崎県の西南部に位置し、長崎市、西海市、諫早市の一部、時津町、長与町の3市2町をエリアとしています。主な農産物は県内産の大半を占める温州ミカンと全国1位の生産量を誇るピワです。



管内でも若手農家が頑張っています。

新規就農研修事業について

農業を始めるには、栽培する品目の選定や栽培技術の習得はもちろん、経営や販売に関する知識の習得、それ以外にも農地の確保や地域とのかかわりの構築が必要不可欠です。その必要な準備を行うのが、JA 長崎せいひの行う新規就農研修事業です。研修のなかでは座学による農業知識の取得だけでなく、地域とのかかわりを重視した実地技術研修を通じ、将来担い手として期待される新規就農者の育成と就農準備支援を総合的に実施しています。また当 JA の新規就農研修事業は長崎県より、農業次世代人材投資資金（準備型）の要件となる研修機関として認定を受けております。

JA長崎せいひの新規就農者の特徴

JA 長崎せいひ管内は、急峻な地形であり、大規模な農地を確保する事が困難な地域です。そのような状況から、限られた農地で効率的に農業を展開する必要があることから、ビニールハウスなどをつかったいわゆる施設園芸で就農される方が多い地域です。特に近年ではいちご、アスパラガス、花きなどの施設園芸にチャレンジされる方が多いです。

農業の開業は案外大変です

● 思ったより開業資金が必要です。

農家のほとんどは個人経営です。サラリーマンのように雇われて農業をするのではありません。ほかの職種と同じく開業するためには、思ったより開業資金が必要になります。また収入を得るまでには品目にもよりますが長期間にわたり無収入の時期が続きます。

● 自分1人ではできません！

農業は地域とのかかわりが大切です。農地の確保や農業用水、畑への搬入路など用地確保をするためには、地主や地域の方との交渉も必要になります。

地域との円滑な関係を構築するためには、地域の行事や活動への参加など、地域の一員としての役割を果たす必要もあります。

● 作ったものが売れるわけではありません！

農業を開業するうえで重要なのが作った農産物の販売です。新規就農を目指す方のほとんどが「販売」という問題にぶつかります。農作物を作れば自然と消費者が買ってくれることはありません。

